

中区地域福祉保健計画

中なか いいネ!

第2期 平成23~27年度



平成23年3月

横浜市中区役所／横浜市中区社会福祉協議会



ごあいさつ



「中なかいいネ！」の新たな5か年が始まります。

このたび、中なかいいネ！委員会や各地区での活発な議論、お寄せいただいた多くの意見をもとに、中区らしさが溢れる第2期の地域福祉保健計画をまとめることができました。計画策定に御参画された皆様方に厚く御礼申し上げます。

「中なかいいネ！」は、“中区のみんなで取り組む行動計画”です。中区役所といたしましても、平成22年に発信したキーワード、「つながり・和」を引き続き大事にしなが、区民の皆様の思いにしっかりとつながり、共感し、そこから生まれた信頼をもとに協働の取組を進め、「安全なまち、安心な暮らし、元気な中区」を一緒につくっていきたいと思います。

中区長 中上 直

この計画の策定にあたり、地域の実情や活動を見つめ直す中で、地域のつながりを強めることや担い手を増やす等の共通の取組テーマから、各地域の特色豊かな目標や取組が挙げられました。

これらの目標や取組は、区役所や区社会福祉協議会だけで実現・推進できるものではありません。在勤・在学者を含む住民や自治会町内会、地区社会福祉協議会、企業・商店等の事業者、ボランティア、活動団体・グループ、機関・施設等の方々と広く連携・協力して、その地域の歴史やこれまでの取組を考え、行動し、さらに工夫をすることで、誰もが安心して暮らしていけるまちを皆様と共につくり上げてまいりたいと思います。

社会福祉法人横浜市中区社会福祉協議会会長 山田 五男

「無縁社会」という言葉が話題となり、人々がつながりを失ってきていることが、現代日本の大きな社会問題となっています。

中区は、古くからの住民同士のつながりが生きている反面、人口の流入が多く、遠慮や無関心を優先しがちな、都会ならではの人間関係の希薄さも持ち合わせています。

第2期計画策定の検討の中では、そのような背景を踏まえながら、この時代に必要とされる地域のつながりを強くしていくことを特に重要なテーマに置いて、5年後、10年後の地域社会を見据えた議論を重ねてきました。

中区のそれぞれの地域が、この計画の推進を通じて、誰もがいつまでも安心して暮らしていけるように、豊かなつながりをさらに育てていけることを願います。

中なかいいネ！委員会委員長 清水 浩一





目次



I 中なかいいネ！とは

1

II 地区別計画

3

第1 北部地区	4
第1 地区中部	6
関内地区	8
埋地地区	10
寿地区	12
石川打越地区	14
第2 地区	16
第3 地区	18
第4 地区南部	20
第4 地区北部	22
本牧・根岸地区	24
第6 地区	26
新本牧地区	28

III 区全域計画

31

中区の姿	32
重要テーマ	33
重点取組	34

IV 計画の進め方

40

V 参考資料

43

基礎データ	44
区民意識	46
社会福祉法抜粋・市計画	47
策定過程	48
委員名簿	49

中なかいいネ!とは

横浜市では、誰もが身近な地域で安心して暮らせるまちをつくるため、社会福祉法第107条に基づき、地域福祉保健計画（全市計画・区計画）を策定し、地域福祉保健の推進のための基本理念や課題を明らかにしながら、課題解決に向けて、市民や事業者、ボランティア、活動団体・グループ、関係機関・施設及び行政等が協働して取り組んでいます。地域福祉保健計画は、市の総合計画「横浜市中期4か年計画 2010～2013」（平成22年12月策定）においても、基本政策「市民生活の安心・充実」の中の施策「参加と協働による地域自治の支援」を構成する事業として位置づけられています。

また、横浜市や各区にある社会福祉協議会では、地域福祉の推進役として、様々な活動や事業を展開するため、全国社会福祉協議会の指針に基づき、民間主体の行動計画である地域福祉活動計画を策定・推進しています。

「中なかいいネ!」は、中区役所が策定する中区の地域福祉保健計画であり、中区社会福祉協議会が策定する中区の地域福祉活動計画です（第2期計画からは、2つの計画を一体化して、「中区地域福祉保健計画」としています）。

この計画は、自分たちの暮らすまちを、それぞれの地域の個性や魅力が生きる、誰もがいつまでも安心して暮らせるまちにしていくために、

- ◆ 少し長い目で自分たちの地域をあらためて見つめ直して、
- ◆ どんな良いところや生活課題があり、どんな取組をしたら良いかを、
- ◆ これまでの取組も再確認・再評価しながら、
- ◆ 組織・団体の枠を越えて地域全体で考えて、
- ◆ 将来像(こうなるといいな)を含めてみんなで共有して一緒に取り組んでいく

そんな計画です。地域の主体的な取組にあわせて、区役所や区社会福祉協議会などの公的機関も、どのような支援が必要かを考え、取り組んでいきます。

中区においては、平成18年3月に第1期計画（平成18～22年度）を策定し、地域の方々とともに様々な取組を進めてきました。平成23年3月に計画期間の満了を迎えるに当たり、中なかいいネ!委員会（中区地域福祉保健計画策定・推進委員会）での議論や各地区においての話し合いを重ね、また広く区民の皆様にご意見や提案をいただき、第2期計画（平成23～27年度）を策定しました。

平成23年4月から、中区の区民や自治会町内会、地区社会福祉協議会、事業者、ボランティア、活動団体・グループ、関係機関・施設、そして区役所、区社会福祉協議会など様々な主体が協働し、新たな5か年の取組を推進していきます。

基本理念

この計画が目指すものは、地域の人々がお互いに支え合い、助け合いながら、中区の誰もが住み慣れた地域でいつまでも安心して暮らしていけることであり、そのための取組や仕組みづくりを、第1期計画に引き続き進めていきます。

行動指針

この計画は、次の基本的視点を持って策定しました。

- ◆ 「地域福祉保健」を狭くとらえず、地域を良くする知恵を出し合おう。
- ◆ 中区らしさや地域の良いところに着目し、伸ばしていこう。
- ◆ これまでの活動をふまえ、必要な改善やステップアップを目指そう。

地域の課題解決力の向上を目指して、それぞれの地区及び区全体において、ネットワークの強化と新たな担い手の確保に重点的に取り組みます。

構成

この計画は、主に地区連合町内会のエリアを単位として、目指すまちの姿や地域の様々な主体による取組をまとめた13の「地区別計画」と、区全体又は区レベルで取り組むべきテーマとその実現に向けた取組をまとめた「区全域計画」で構成されています。

計画期間

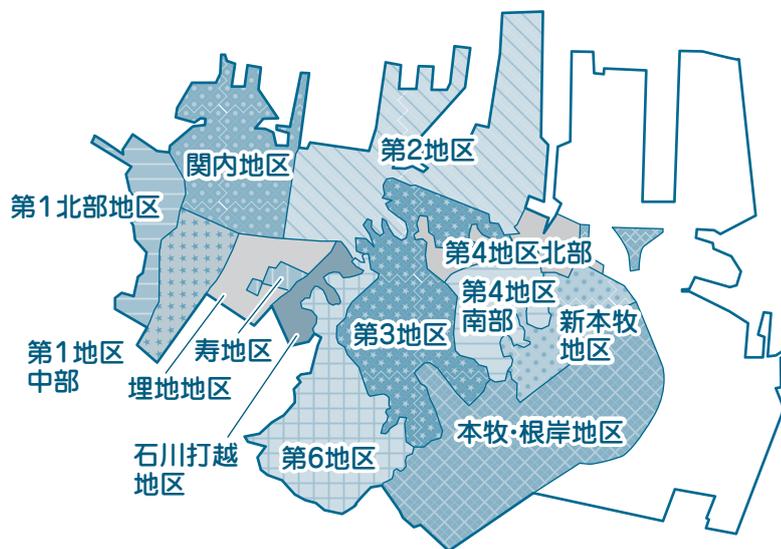
この計画の取組期間は、平成23年度から平成27年度までの5か年間です。ただし、期間内においても、中区を取り巻く社会状況の変化等をふまえ、適宜必要な見直しを柔軟に行いながら、計画を進化させ、推進していきます。

協議機関

この計画の策定及び推進に関する事項は、中なかいいネ！委員会において協議し、区役所及び区社会福祉協議会へ意見を提出します。

Ⅱ 地区別 計画

地区別計画は、主に地区連合町内会のエリアを単位として、中ながいいネ！委員会の地区委員を中心とした地域主体の「地区別計画策定プロジェクト」を設置し、地区懇談会等の話し合いを重ね、目指すまちの姿や地域の様々な主体が協力して進めていく取組をまとめました。



策定
エリア

区内に12ある地区連合町内会のエリアと寿地区を対象に、それぞれの地区の計画を策定しました。

計画の 内容

- ◆ 地区の現状(この地区はこんなまち)
 - この地区の良いところ ● この地区の良くしたいところ
- ◆ 目標・目指す姿(こんなまちにしたい)
- ◆ 行動と工夫(こう取り組んでいこう)

取組 主体

各地区の在勤・在学者を含む住民や自治会町内会、地区社会福祉協議会、企業・商店等事業者、ボランティア、活動団体・グループ、機関・施設等の様々な主体が共に協力しながら、地区別計画に掲げた目標に向けて取組を進めます。



第1北部地区

赤門町、内田町、黄金町、桜木町、野毛町、初音町、
花咲町、英町、日ノ出町、宮川町



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ ラジオ体操や毎年行われる親子ハイキング、地域の大運動会、高齢者と小学生とのふれあい給食会など、住民間、世代間の交流が活発に行われている。
- ◆ 大岡川桜まつりや野毛大道芸、日ノ出町駅前再開発事業など、まち興しやまちの活性化に向けた事業が盛んに行われている。
- ◆ 防犯・防災、児童の安全、青少年の非行防止に向けた、住民によるパトロール活動が活発に行われている。
- ◆ 環境事業推進員によるパトロールにより、まちの美化が推進されている。
- ◆ 下町の良さが残り、地域に愛着のある住民が多い。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 新しく建ったマンションの住民と古くから住んでいる住民との交流が少ない。
- ◆ 地域で育った若い世代が転出した後、戻って来ない。
- ◆ まちを出て行く若い世代が多く、町内行事の担い手の確保が困難になっている。
- ◆ 青果店や雑貨屋等、かつて多く見られた生活密着の小売店が無くなり、代わりに飲食店ばかりが増えている。
- ◆ 小さな子どもとその親が、同世代の親子と交流をする適当な場所が無い。
- ◆ 地区内で小学校の学区が分かれており、学区間の児童の交流が少ない。
- ◆ 初黄・日ノ出町地区は、大規模な摘発により環境が浄化されたが、監視の必要な状態がまだ続いている。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

① 地域の交流の輪が
広がっているまち

② 明るく賑わいのある、
住みやすいまち

③ 子どもたちの健やかな成長を
地域みんなで見守るまち

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

交流の輪の
広がり

- ◆ 地域のイベントや活動への参加を、マンションなどの新しい住民にも積極的に呼びかけ、地域のつながりを強めよう。
- ◆ 子どもたちが参加する地域のイベントや活動では、学区の違う児童同士が交流できる工夫をしよう。
- ◆ まずは自分からあいさつや声かけをして、顔の見えるご近所付き合いを進めよう。

賑わいの
創出

- ◆ コガネックス・ラボを拠点として、学生とも協働しながら、まちの賑わいを創出していこう。
- ◆ 下町の良さが残る「賑わいのあるまち」づくりを、再開発事業もきっかけとしながら、できることから取り組もう。

地域ぐるみの
子育て

- ◆ 小学校の児童との交流を深め、卒業した後も、地域で子どもたちの成長を見守ろう。
- ◆ 子どもたちに地域のお祭りやイベントへの参加を呼びかけ、様々な体験を通して、「まち」を愛する心を育もう。
- ◆ 小さな子どもたちと母親らが集える場所づくりを進めていこう。
- ◆ 児童の安全、青少年の非行防止のために、防犯パトロール活動を継続しよう。



第1地区中部

曙町、伊勢佐木町、末広町、末吉町、羽衣町、福富町、
蓬莱町、弥生町、吉田町、若葉町、長者町の一部



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 開港前からの歴史がある。開港後も、常に横浜の中心地となっている。
- ◆ 開港からの老舗が多い。飲食店などの新しい店舗が増えている。
- ◆ 人情がある横浜の下町。気取らず、庶民的な風情がある。
- ◆ JR、地下鉄、京急と、鉄道路線に囲まれたアクセスの良いまち。
- ◆ 横浜最大級のお祭り、商店街イベントが毎週ある。
- ◆ 大岡川桜まつりお花見会や視覚障害者と青少年の交流ボーリング大会、バス旅行など、地域交流が活発に行われている。
- ◆ 若い人たちの活動がある。外国人も含め、いろんな人々が集まってくる。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 地域、自治会町内会相互の交流・連携が少ない。
- ◆ 商店、特に老舗の物販店が減少している。老舗商店の後継者がなかなかいない。
- ◆ 一部の人に役職等の負担が偏りがちになっている。
- ◆ 外国人や新しい住民の中には、ごみ出しのルールを守らなかったり、騒がしいなど、生活マナーに問題がある人がいる。
- ◆ 違法駐輪や放置など、自転車に乗る人のマナーの悪さが目立つ。
- ◆ 違法な風俗営業が増えたり、迷惑行為があるなど、治安面に課題がある。
- ◆ 多くの高齢者が生活しているが、ひきこもりがちで健康面が心配。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

① いろんな人々が互いに
認め合い、共存できるまち

② 若い力が育ち、
次世代へつながるまち

③ みんながいきいきと
すこやかに生活しているまち

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

共生・共存

- ◆ 必要に応じて専門機関等の協力を得ながら、外国人、新住民、障害のある人、高齢者、若い人など、地域に暮らし働く様々な人たちとの共生の方法を考え、実践していこう。
- ◆ 他の地区や都市での取組事例を参考にして、できそうなことから「1中（いちなか）」流にアレンジして、取り組んでみよう。
- ◆ 地域内の活動団体の交流やネットワークづくりを進めよう。

次世代への
継承

- ◆ 若い人たちのやる気の受け皿となる活躍の場を創出していこう。
- ◆ 若手グループのまち興し活動との連携を図りながら、まちの賑わいづくりを進めよう。
- ◆ 交流と参加の輪を広げ、次世代を担う人材を育てていこう。

健康維持
介護予防

- ◆ まちぐるみで、住民の心と体の健康づくりを進めよう。
- ◆ 高齢者の病気・介護の予防活動を進めよう。

こんな工夫を
しながら
取り組もう

- 進捗状況及び取組結果は、地区連合町内会長会に随時報告する。
- 目的を具体的に、簡潔に。期限を決めて取り組む。
- 話し合いを継続し、柔軟に見直しながら計画を推進する。



関内地区

相生町、太田町、尾上町、海岸通、北仲通、新港町、住吉町、常盤町、日本大通、弁天通、本町、真砂町、港町、南仲通、元浜町、横浜公園



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 全国的にも有名な観光スポットがたくさんある。
- ◆ 歴史や文化的な情報の発信地となっている。
- ◆ 34年以上続く餅つき大会など、高齢者と小中学生が参加するイベントが、長年続いている。
- ◆ 住民と地域の大学や行政が、協働して地域活動を行っている。
- ◆ 商店街や企業などの資源が多い。
- ◆ 多くの市民活動団体の活躍の場となっている。
- ◆ 地区内だけでなく、地区外との交流も行われている。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 住民の情報が限られており、高齢者の見守りや青少年への支援活動、防犯活動などが行いにくい。
- ◆ 自治会町内会に加入していない世帯には、情報を届けられないことがある。
- ◆ 自治会町内会への加入が少なくなり、会の運営が難しくなっている。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

地域の商店・企業やマンション住民も巻き込んだ、地域交流の活発なまち

1 地域交流の場所が
つくりられている

2 マンション住民との
交流が深まっている

3 地域の商店・企業の協力が
得られている

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

交流の 活性化

- ◆ 今ある地域活動を継続し、広げていこう。支え合いのネットワークづくりに取り組もう。
- ◆ 多くの人を巻き込んでいく取組を進めよう。いろいろと工夫しながら、若い人たちを巻き込んだ人材育成を進めていこう。
- ◆ イベントのノウハウをマニュアル化しよう。

マンション 住民との 交流

- ◆ マンション住民にも地域活動に出てきてもらえる環境をつくろう。
- ◆ イベントや情報提供をするときは、マンション住民にも主体的に出てきてもらえるよう、「きっかけ」づくりの工夫をしていこう。

商店・企業 との連携

- ◆ 地域に関わる人の手づくりで地域活動を続け、地域の商店・企業に協力を得る取組を進めよう。



埋地地区

翁町、千歳町、万代町、富士見町、不老町、山田町、山吹町、
吉浜町、扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 区画整理された平坦地。鉄道・地下鉄・バスなど交通の便が良く、公共施設や病院、企業、学校なども多い。買物をする場所も近くにあり、便利で生活しやすい。
- ◆ 様々な国からの多数の外国人が暮らしている。
- ◆ 個人や団体、企業によるボランティア活動が活発に行われている。
- ◆ 地域活動に対する関心が、地域の学校からも得られている。
- ◆ くつろぎの場であり、地域行事も行える良く管理された大小の公園がある。
- ◆ 防災訓練を活発に行っている。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 自治会町内会の加入者や加入意識のある人が少なくなり、地域のつながりが希薄になってきている。
- ◆ 自治会町内会に加入していない世帯には、必要な情報を届けられないことがある。
- ◆ ごみ出しのルールを守れない人がいる。
- ◆ 道路、歩道に自転車やバイクが置かれ、歩行の障害になることがある。
- ◆ 道路や公園で、一部の人によるごみや空き缶、煙草の吸殻などのポイ捨てがある。また、犬のフンを放置したり、リードを放すなどの行為がある。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

住む人、働く人、学ぶ人、訪れる人すべての人にとって、「安全で、住みやすく、安心な暮らし」のできる埋地地区

1 ご近所さんの
顔が見えるまち

2 地域力が高いまち

3 誰もが好きになる
きれいなまち

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

顔の見える 関係づくり

- ◆ 今ある地域活動を継続し、地域づくりを進めよう。
- ◆ まずは、「あいさつ」「一言声かけ」から始めよう。
- ◆ ひとり暮らしの高齢者や高齢者世帯を地域で見守っていこう。

地域力の 向上

- ◆ 必要な人に必要な情報や支援が届く仕組みをつくろう。
- ◆ 地域の知恵と力を活かし、防犯・防災・安全の向上を図ろう。
- ◆ 防災訓練のやり方や地域防災拠点の仕組みを周知しよう。

きれいな まちづくり

- ◆ みんながごみ出しのマナーを守れるよう、工夫と働きかけをしよう。
- ◆ 放置自転車等障害物の無い歩きやすい歩道づくりに取り組もう。
- ◆ 道路や公園で、ごみを捨てられないように工夫をしよう。
- ◆ 公園に、子どもと親が安心して遊べる居場所を確保しよう。

こんな工夫を しながら 取り組もう

- 住む人、働く人、学ぶ人、訪れる人すべての人で活動を進める。
- ボランティア活動、地域貢献活動を周知し、活性化させよう。



寿地区

扇町・寿町・長者町・松影町・三吉町の一部



地区の現状

この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 2か所の保育園が地域の行事に参加し、交流がある。
学童保育を地区外の児童も利用し、地域に子どもの姿がある。
- ◆ 高齢者向けの行事が多い。
- ◆ 介護保険事業所や障害者地域作業所、診療所など、高齢者や障害者が活用できる社会資源が多い。
- ◆ 診療所が、往診や服薬管理などきめ細かく対応してくれている。
- ◆ 助け合いの「心」がある。挨拶が多い。地域の人たちが、事業所職員や行政職員等とも挨拶を交わし、顔が見える関係が築けている。
- ◆ 生活してみると良い地域だと実感する。いろいろな人が住める、懐の深いまち。
- ◆ 地区外からもボランティアの参加が多い。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 高齢や障害のために、基本的な生活習慣に課題のある人が増えている。
- ◆ アルコールなどへの依存がある人たちには、適切な支援が必要。
- ◆ 家族の支援が得られない単身者が多く、病気が重篤化する傾向があり、周囲の支援が必要。
- ◆ 孤独になりがちな高齢・単身者の交流を増やす必要がある。
異世代間交流をもっと促進したい。
- ◆ まちに安心して利用できる車椅子用トイレやバリアフリーの浴場をもっと増え、多くの人々が利用できれば良い。
- ◆ 「花いっぱい運動」などで粗大ごみの不法投棄は減ったが、
もっと減るようにしたい。
- ◆ 地域全体の防災意識をもっと高めたい。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

① 人と人の助け合いやつながり、
活発な交流のあるまち

② 病気に負けないで、
誰もが健康に暮らしているまち

③ 住む人、訪れた人が
心安らぐまち

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

交流

- ◆ 寿独自版「中なかいいネ!ニュース」をつくり、発信しよう。
- ◆ 社会資源ツアーなどを行い、自分たちの地区の強みを知ろう。
- ◆ ネットワーク連絡会を定期的で開催し、積極的に情報共有しよう。
- ◆ 福祉まつりやミニ運動会などのイベントを開催し、交流を進めよう。

支援

- ◆ 就労継続のため、基本的な生活習慣を身につける支援をしよう。
- ◆ 金銭管理や健康管理を必要とする人への支援をしよう。
- ◆ アルコール依存症以外の自助グループも立ち上げを支援しよう。

環境

- ◆ 粗大ごみの不法投棄防止の活動を継続しよう。
- ◆ 地区内で出る家電製品の手分解を事業化しよう。

こんな工夫を
しながら
取り組もう

- 当事者の声・実感を聴き続け、計画に反映させていくことが大切。
- 高齢や障害などの既存の枠組みにとらわれることなく、「課題」を中心にメンバーが集まり取り組んでいく仕組みをつくる。
- まずは試してみて、ダメなら次に。柔軟な姿勢で進める。
- 「ヒラメキ・思いつきボックス（仮称）」を設置し、知恵を集める。



石川打越地区

石川町、打越



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ サロンや食事会、バス旅行、町内清掃等、世代を越えた住民同士の交流機会を多く持っている。
- ◆ ふれあい給食会で作った食事の配食を通して、地域の高齢者の見守りができている。
- ◆ 町内同士の関係が良い。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 暮らし方や生活環境、地域との関係が多様な人たちが共存・協力していくことが必要。
- ◆ ごみ出しのルールが守られていないことがある。
- ◆ プライバシーにも配慮した緊急時の安否確認とその支援体制について、検討していく必要がある。また、防災訓練に参加するメンバーが限られてしまう。
- ◆ 山坂が多く、集まりに出てくることが大変。
特に、小さな子どもとその親が気軽に集まれる場が少ない。
- ◆ 新しい世代との交流を深め、地域活動の担い手の世代交代を進めていく必要がある。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

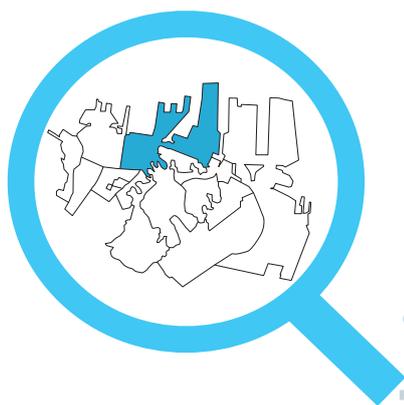
住んでいる人みんなが、「幸せだなあ」と感じられるまち

1 隣近所の住民同士が語り合え、
自然と助け合いができるまち2 すべての人の幸せを考え、
前向きに取り組んでいくまち3 次世代を見据え、上手に
世代交代していけるまち

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

- ◆ 外国人や障害のある人も、まちに住む人みんながつながり、互いに助け合える仕組みを考えよう。
- ◆ 多くの人が共感をもって力を合わせていけるよう、コミュニケーションの場を持とう。
- ◆ 今ある地域活動を継続し、参加の輪を広げていこう。
積極的に声をかけるなど、初めての人でも地域活動に参加しやすくなる雰囲気をつくろう。
- ◆ 活動への意欲を高める工夫をしよう。
- ◆ 子どもや若い人たちが参加し、世代間の交流が生まれるイベントや活動を、
精力的に仕掛けていこう。参加をきっかけに一緒に活動しながら、次の担い手を育てていこう。
- ◆ より多くの人々が防災訓練に参加する工夫や、声かけ・パトロールを通じて安心・安全な
まちづくりの仕組みを考えよう。





第2地区

新山下、元町、山下町



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 地域活動が多くあり、継続していくために、若い人に地域活動へ関心を持ってもらうなど、担い手を広げる工夫をしている。
- ◆ 長年住んでいる人が多く、顔なじみの関係がある。
- ◆ 学校と地域の交流が盛んで、地域の人に見守られて子どもが育っている。
- ◆ 横浜の歴史的で有名な観光地があり、訪れる人が多い。
- ◆ 色々な国の人とふれ合う機会がある。
- ◆ 地区内に、中区の障害者支援の拠点となる施設（3障害一体サービス提供施設）の建設が予定されており、新たな交流の場になり得る。
- ◆ 地域・企業など広いつながりがある「山下公園健康づくり芝生ボランティア」の活動が行われている。
- ◆ 地域の親子や老人クラブなどが、世代を越えて清掃活動に参加している。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ マンションが増え、新旧住民間のコミュニケーションが不足している。
- ◆ 担い手が不足している。自治会町内会などで新しい役員探しに苦労している。
- ◆ 外国人と日本人が、お互いの文化をもっと理解し合う必要がある。
- ◆ ごみのポイ捨てなど、観光地ならではの課題がある。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

① いろいろな世代や障害者、外国人などとのネットワークをつくり、交流できるまち

② 安心・安全・明るいまち

③ みんなで力を合わせてきれいなまち

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

- ◆ あいさつをして顔なじみになろう。
- ◆ お互いに声をかけ合い、誘い合って、地域の行事に参加しよう。
- ◆ ふれあいサロンを続けていこう。
- ◆ 登下校の見守りやパトロールを続けよう。
- ◆ 地域で高齢者の見守り活動を続けよう。
- ◆ 山下公園の芝生ボランティアを続け、参加者を増やそう。
- ◆ クリーンアップ活動（清掃、看板設置、啓発等）を継続し、広げていこう。

こんな工夫をしながら取り組もう

- 何事も「継続は力なり」。今ある活動を着実に続けていこう。
- 掲示板・回覧板の活性化や、くちこみやメールの活用など、様々なPR手段を工夫して使おう。
- 第2地区として、一体感を高める取組をしよう。



第3地区

上野町、柏葉、鷲山、竹之丸、立野、仲尾台、西之谷町、本牧緑ヶ丘、豆口台、妙香寺台、麦田町、大和町、滝之上・山手町の一部



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 長く住み続けられるまち。緑が多い。人情がある。
- ◆ 隣近所のつながりが残っている。住民同士の見守りや支え合いができています。
- ◆ 地域の中に、様々な経験・特技を持った方がいる。
- ◆ 民生委員児童委員、自治会町内会、老人クラブ、ボランティアなど、様々な活動が活発に行われている。
- ◆ 観光地に近いが、昔ながらのまちで、落ち着きがある。
- ◆ 大きな公園や文化施設、知られざる名所・旧跡が数多くある。
- ◆ 多くの外国人が住んでおり、海外の文化にふれる機会に恵まれている。
- ◆ 横浜の中心に近く、公共施設・機関へのアクセスに便利。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 買い物や通院等の外出に、坂道の多さが負担となっている。
- ◆ 近隣に商店が少なくなり、日常の買い物が不便になっている。
- ◆ ひとり暮らし高齢者や高齢者のみの世帯が増えて、特に、災害時や緊急時に近隣のサポートを必要とする世帯が多くなっている。
- ◆ 自治会町内会への加入が減っている。自治会町内会や民生委員児童委員などにとって、働きかける対象が把握しにくくなっている。
- ◆ 自治会町内会の役員や民生委員児童委員等の行政委嘱委員、地域で活動するボランティアを引き受ける人が少なくなっている。
- ◆ 地域情報や福祉保健情報がうまく伝わらないことがある。
- ◆ ごみ出しのマナーが徹底されず、カラスがごみを散らかしていることがある。

目標・目指す姿 ……こんなまちにしたい

第3地区をもっと住みよいまちにしよう！

① 身近な地域に
「交流の場」があるまち

② 地域の情報が
活発にやりとりされるまち

③ 地域の人材が
活躍できるまち

行動と工夫 ……こう取り組んでいこう

「第3地区の大切な資源」を生かし、つながっていこう！

- ◆ 地域の大切な資源となる交流の「場所」や「機会」を増やし、「縁」をひろげよう。
 - 地域食事会や見守り活動、買い物サポート、地域防災対策など、町内ごとの実情に合った取組を進めよう。
 - 既に行われている良い取組事例から学び、取り入れよう。
 - 町内会館・公園などの場所、老人クラブなどの集まり、民生委員児童委員、ボランティア、地域ケアプラザ等が持つつながりを生かして取り組んでいこう。
- ◆ 地域の大切な資源である様々な「情報ツール」を生かして使おう。
 - 掲示板や回覧板など今ある情報ツールをより活用しよう。
 - 地域情報や福祉保健情報を、楽しくわかりやすく伝えよう。
- ◆ 地域の大切な資源である様々な「人」が、地域活動に参加しやすい環境をつくろう。
 - 好きなことや得意なことをきっかけにして、気軽に地域活動に参加できる仕掛けづくりを進めよう。
 - それぞれの活動が充実するような、担い手同士のつながりをつくっていこう。



第4地区南部

本郷町、本牧町、本牧満坂、本牧荒井の一部



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 緑が多く見晴らしの良い高台がある。
- ◆ 本牧ブランドと言えるおしゃれなイメージがある。
- ◆ 住民同士がまとまっている土地柄で、声をかければ集まりができる。
- ◆ コミュニティハウスや集会所等の地域資源が充実しており、高齢者食事会等の福祉活動や住民交流に積極的に活用している。
- ◆ 障害者支援の施設や活動が多くある。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 坂道が多く、妊婦や子連れの方の負担になっている。
- ◆ ごみ出しのルールが守られず、カラスや猫に散らかされる。
- ◆ 自転車で、信号を守らない大人がいる。駐輪の場所にも問題がある。
- ◆ 地域の催しや活動への男性の参加者を増やしたい。
- ◆ 新しく役員を引き受ける人が少なくなっている。
- ◆ どのようにすれば、若い世代や団塊の世代、新しく引っ越してきた人などに、地域活動に参加してもらえるかを考える必要がある。
- ◆ 地域の組織や様々な推進委員等について、活動が縦割りであったり、PRが不足しているなどの課題がある。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

よりよい未来へ。この町を身近なところからもっともっとよくしたい！
できることから始めよう！！

1 地域の良いところを生かし、
課題解決に協力して取り組むまち

2 高齢者や障害のある人が
孤立しない、ふれあいや思いやりを
大切にするまち

3 地域の横のつながりが
活発で、明るく楽しいまち

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

地域の
良いところを
活かす
課題解決

- ◆ 坂道の足を確保しよう。
- ◆ 坂道を生かしたウォーキングコースを考えよう。
- ◆ ごみ出しのマナーを守る工夫を考えよう。
- ◆ 人と自転車の共存のあり方を考えよう。

孤立しない
まちづくり

- ◆ 男性が外に出るきっかけをつくろう。
- ◆ 世代間交流を図ろう。
- ◆ 防災対策を充実させ、学校や障害者施設等と地域との連携を図ろう。
- ◆ 「目配り、気配り、心配り」を大切にしよう。

活発な
つながり
づくり

- ◆ 地域の様々なつながりを活性化させよう。
- ◆ 地域活動や団体・施設等の情報を PR しよう。
- ◆ 老人クラブなど住民の自主的な活動を活性化させよう。

こんな工夫を
しながら
取り組もう

- ミニバスがさらに活用される方法を考えよう。
- 駐輪場や自転車専用レーンについて検討しよう。



第4地区北部

北方町、小港町、諏訪町、千代崎町、本牧十二天、山手町の一部



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ ふれあいサロンひとときの会、高齢者食事会、運動会など、地域で協力して、活動を活発に行っている。
- ◆ 町内ごとのお祭りなど、地域の行事が多く、交流が盛んである。
- ◆ 高齢者の見守りなどの活動を、自治会町内会と民生委員が協力して行っている。
- ◆ 長く住み続けている住民が多い。
- ◆ 障害の有無や世代にかかわらず、住民同士が気軽に声をかけ合える。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 今ある活動を継続しつつ、若い人など新しい参加者をもっと多くしていきたい。
- ◆ 役員世代交代ができるか心配。
- ◆ 情報が伝わらないために、地域活動に参加できていない人もいる。
- ◆ もっと若い世代と交流できる機会が増えると良い。
- ◆ 行事に参加したくても、知り合いがいないと参加しにくい。
- ◆ 地区外へ通う小学生の情報が入らず、地域の行事等に誘えていない。
- ◆ ごみ出しのルールや犬のフンの処理などの生活マナーを守れない人がいる。粗大ごみの不法投棄もある。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

① 地域みんなが顔見知り。
仲良く、明るく、楽しいまち

② 子どもたちの「ふるさと」に
なるまち

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

- ◆ 隣近所のつながりを大切にしよう。道で会ったら、あいさつをしよう。
- ◆ まちのみんなで高齢者の見守りを続けていこう。
- ◆ 子どもはみんなの宝もの。健やかな成長をみんなで見守ろう。
- ◆ 高齢者ふれあいサロンや子育てサロン等、今ある様々な活動を続けていこう。
楽しく活動している姿をまちの人に知ってもらおう。
- ◆ 声をかけ合って、まちの行事に参加しよう。子どもたちや新しい住民が地元を愛する
心を持つきっかけづくりとして、お祭りなどの行事へ積極的に誘い、一緒に楽しもう。
- ◆ ごみ出し・犬のフン等、マナーを守ってもっと輝くまちにしよう。

こんな工夫を
しながら
取り組もう

- 年に1回、テーマを決め、まちや団体の活動について、
情報交換会を行う。



本牧・根岸地区

池袋、かもめ町、千鳥町、豊浦町、錦町、根岸加曽台、根岸町、本牧大里町、本牧三之谷、本牧ふ頭、本牧間門、本牧元町、南本牧、矢口台、本牧荒井・本牧原の一部



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 学校行事に卒業生が参加したり、地域のお祭りに子どもたちが参加するなど、世代間のつながりがある。
- ◆ 夜間の防犯パトロールや年末の防災運動に取り組んでいる。
- ◆ 地区の運動会が毎年盛大に行われている。
- ◆ 登下校時の通学路で自治会町内会、老人クラブが協力して、見守りパトロールを行っている。
- ◆ 地域貢献に積極的な企業と自治会町内会とのつながりがある。
- ◆ 地域作業所やグループホーム等、障害のある人が活動・生活する場所が多い。ポレポレまつりをはじめ、障害のある人との地域交流が活発に行われている。
- ◆ 子育て中の親同士の自主活動が継続して行われている。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 地区が広いので、地区内のそれぞれの地域で課題が異なる。
- ◆ 新しいマンション等の住民に地域の情報が伝わりにくく、地域の様々な活動を十分に利用してもらえていない。
- ◆ 30～50代の年齢層は、地域の中での関わりが不足している。
- ◆ 既存の活動の担い手が不足し、活動の継続が難しくなっている。
- ◆ 関係者の交代で、地域活動の取組が途切れることがある。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

1 住民間、世代間、近隣の企業と住民間等、みんなの交流が活発に行われている

2 障害のある人の地域参加がより進んでいる

3 身近な地域で行われている活動の情報が発信・周知されている

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

交流の活性化

- ◆ 学校と連携し、子どもたちと高齢者との世代間交流を図ろう。
- ◆ 地域にある企業・事業所との協力関係をさらに深めよう。
- ◆ みんなであいさつし合うまちづくりを進めよう。
- ◆ 日頃から障害者施設と自治会町内会とのつながりをつくろう。
- ◆ 周りに積極的に呼びかけ、参加のきっかけづくりをしよう。
- ◆ 参加対象者の興味関心を考え、活動内容を工夫しよう。

障害者の地域参加

- ◆ 学校の「まち探検」など今ある取組を活用しながら、障害のある人が作業や生活の様子等自分たちのことを伝える機会をつくろう。
- ◆ 障害のある人が地域参加しやすいように、障害者施設との情報交換をしよう。防災訓練等への参加方法を工夫しよう。

活動情報の発信

- ◆ 地域ケアプラザの広報紙などを利用して、情報を発信しよう。
- ◆ マンションなどの転入者に、自治会町内会から働きかけ、情報を伝えよう。
- ◆ 30～50代の年齢層へ向けた情報発信を工夫しよう。
- ◆ 地域の犯罪・防犯情報を発信し、もっと防犯意識を高めよう。
- ◆ 企業等の地域貢献活動を、住民に広く知ってもらおう。
- ◆ 小中学校のPTAに声をかけ、身近な地域活動への参加を促そう。



第6地区

大芝台、大平町、塚越、寺久保、西竹之丸、根岸旭台、根岸台、
 蓑沢、山元町、滝之上・山手町の一部



地区の現状

この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 長く住み続けている住民が多く、結びつきが強い。
- ◆ 競馬場跡など歴史的に価値あるものが残っている。
- ◆ 育児サークルなどの子育て世代の活動やグランドゴルフなど高齢者の活動が活発である。
- ◆ ふれあいまつりには 1000 人以上の人が集まり、世代交流の場となっている。
- ◆ ふれあいサロン等地区社会福祉協議会の活動が継続して行われている。
- ◆ 「山元小学校をみまもる会」により、子どもたちが見守られている。
- ◆ 隔年の夏祭りが盛大に行われている。
- ◆ 治安が良く、静かなまちである。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ マンションなどの新しい住民との接点があり、交流が難しい。
- ◆ 地域の行事に参加する人が減り、行事が縮小傾向にある。
- ◆ 地域活動の情報が十分に伝わらないことがある。
- ◆ 障害のある人と共に行う活動がまだ少なく、もっと増やしていく必要がある。
- ◆ はまっこふれあいスクールが終了した後の 18 時以降に、子どもを預けられる場所やサービスが少ない。
- ◆ 行政区と学校区の区域にずれがあり、児童を対象とした活動がしにくい。
- ◆ 商店街に空き店舗が増えつつある。
- ◆ ごみや犬のフン等、マナーの悪さを感じることもある。

目標・目指す姿 …… こんなまちにしたい

みんなのハートがふれあうまち
～深めよう！地域のつながり～

行動と工夫 …… こう取り組んでいこう

- ◆ 今ある地域活動の情報をみんなに伝え、参加者を増やそう。
 - 地区の行事の情報を集め、「イベントカレンダー」にまとめよう。
 - 全世帯に配布し、各家庭で活用しよう。
 - 掲載されている行事に、家族みんなでどんどん参加しよう。

- ◆ みんなで遠慮や無関心を乗り越え、地域のつながりを深めよう。
 - 気軽に声をかけ合う、「ひと声あいさつ運動」を進めよう。
 - 特に高齢者や子ども、障害のある人と積極的にあいさつをしよう。
 - みんなの声かけで、ごみ出しや自転車の乗り方、犬のフンの処理など、まちのマナーを良くしよう。

こんな工夫を しながら 取り組もう

- 計画推進の取組として、ふれあいまつりに継続的に参加して、地域住民の意見を聞いたり、進捗の報告を行っていこう。
- 「ひと声あいさつ運動」では、みんなが遠慮をしないであいさつができるよう、目印となるものを考案し、広めよう。





新本牧地区

本牧宮原、本牧和田、和田山、本牧原の一部



地区の現状 この地区はこんなまち

この地区の 良いところ

- ◆ 緑が多く、道幅も広く、街の景観が良い。
- ◆ 若い世代の住民が多く、地域活動にも参加している。
- ◆ 外国人が多く、国際色が豊かである。
- ◆ 自治会町内会の活動が盛んである。
- ◆ 買い物や食事がしやすく、生活に便利。
- ◆ 専門的な知識・技術を持った多様な人材が豊富にいる。

この地区の 良くしたい ところ

- ◆ 新しい自治会が立ち上がりにくく、加入にも消極的である。
- ◆ 子どもへの見守りや関わりが足りない。
- ◆ 障害のある人への理解がまだ少ない。
- ◆ 自転車等のマナーを守れない人のために、歩行者等が困ることがある。
- ◆ ごみ出しのルールを守らない人が増えている。

目標・目指す姿 …………… こんなまちにしたい

① 今ある自然や住環境を守っていききたい

② 世代、国籍、障害の有無等を問わず、様々な住民の間で交流を持ちたい

③ 地域で活躍する人を増やしたい

行動と工夫 …………… こう取り組んでいこう

住環境

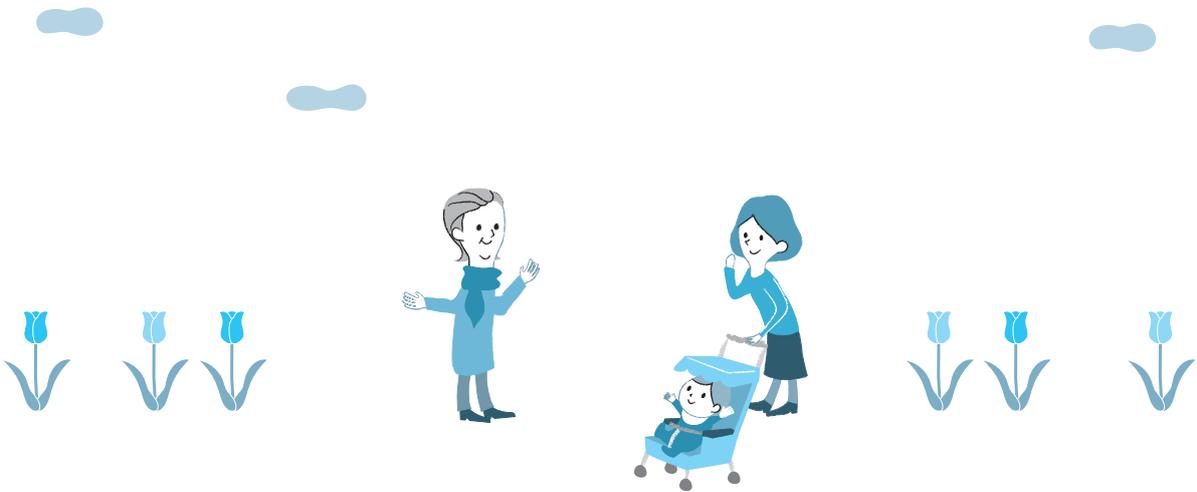
- ◆ 自然豊かな山頂公園を有効活用しよう。世代間交流ができる行事を考えよう。
- ◆ 安全運転や歩行者優先、ルールを守った駐輪など、自転車のマナーの向上を図ろう。
- ◆ G 30 の成果の周知や、外国人もわかるごみ収集の案内掲示をしよう。

住民の交流

- ◆ 魅力ある行事を増やしていこう。
- ◆ 青少年育成のため、学校との連携を密にしよう。
- ◆ 今活発に行われているスタンプラリーやポレポレまつり、季節ごとの行事などを継続しよう。
- ◆ 管理人の協力を得るなどの様々な工夫をしながら、マンション住民へ働きかけていこう。

担い手の確保

- ◆ 自治会町内会で活躍してくれる人を増やそう。

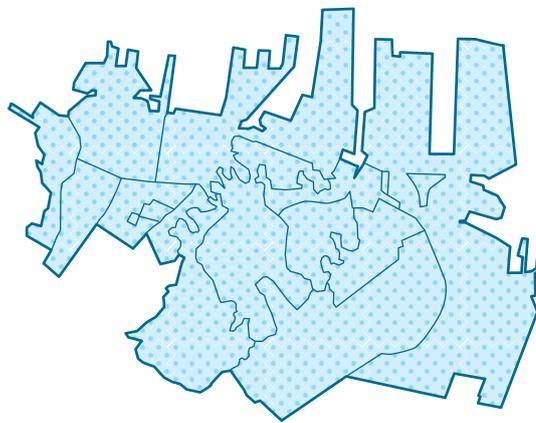


Ⅲ 区全域 計画



区全域計画は、区全域にかかる重要な2つのテーマと、区民や自治会町内会、地区社会福祉協議会、事業者、ボランティア、活動団体・グループ、関係機関・施設等と区役所及び区社会福祉協議会が協働しながら、今後5か年で重点的に進めていく7つの取組をまとめました。

計画の推進にあたっては、市の総合計画「横浜市中期4か年計画 2010～2013年」(平成22年12月策定)における横浜版成長戦略や基本政策・施策に沿って取り組んでいきます。



策定
エリア

区全域を対象とします。

計画の 内容

- ◆ 中区の姿(中区はこんなまち)
- ◆ 重要テーマ(実現していきたいこと)
- ◆ 重点取組(こう取り組んでいこう)
 - みんなで取り組む行動目標
 - 区役所・区社会福祉協議会の主な取組

取組 主体

区民や自治会町内会、地区社会福祉協議会、主に区全域で活動している事業者、ボランティア、活動団体・グループ、関係機関・施設等と区役所及び区社会福祉協議会が協働しながら、取り組めます。

まちの様子

- ◆ 開港の地として、数々の西洋文化を受け入れ、我が国の近代化の礎を築いてきました。現在も、歴史や文化を生かしたまちづくりが進められています。
- ◆ 大都市・横浜における都市機能の中枢を担い、政治・行政、文化・情報、経済・ビジネスの中心地となっています。特に観光資源が豊富にあり、国の内外から多くの人々が訪れています。
- ◆ 港を中心とした歴史と異国情緒のある風景や港湾機能・工業の集積、世界最大級の中華街、元町や伊勢佐木町、野毛の賑わい、山手や本牧、根岸の緑に恵まれた閑静な住宅街、簡易宿泊所が密集する寿地区、関内の都市機能の集積など、地域ごとに多様な顔を持つ魅力的な区です。
- ◆ 区内には、大岡川と中村川が流れ、埋立地を含め海・川沿いに平地が広がっています。一方、山手や本牧、根岸にはまとまった丘陵地があり、坂道や崖地が生活上の課題となっている地域も少なくありません。
- ◆ 事業所数、事業所従業者数が18区中最も多くなっています。産業別では、第3次産業が大勢を占め、特に卸・小売業、飲食店・宿泊業及びサービス業の割合が高くなっています。

人口・世帯等

- ◆ 人口は約14万9千人で、18区中では4番目に小さい区ですが、昼夜間人口比率は182.9%で、昼間の人口では2番目に大きな区です。
- ◆ 人口は、平成22年までの5年間で約7,200人(5.0%)の増加となっています。社会増・自然減の傾向にあり、特に平成21年中の社会増加数は2,738人と、18区中で最も多くなっています。
- ◆ 65歳以上人口の割合は20.0%で、5人に1人が高齢者となっています。15歳未満人口は11.2%と、市全体の13.4%と比べて少なくなっています。
- ◆ 1世帯当たり人員は1.77人で、18区中では最も少なく、高齢者世帯も含め単身世帯の割合が高くなっています。
- ◆ 外国人登録者数は人口の1割強を占め、増加傾向にあります。国籍で見ると、6割弱が中国籍ですが、90か国以上と多国籍化が進んでいます。また、日本語が不自由で、生活や学習に支障のある家庭や児童が増えています。
- ◆ 生活保護世帯数は8,000世帯を超え、市全体の約19.1%を占めます。一時は減少傾向にありましたが、景気後退の影響により、再び増加傾向にあります。
- ◆ 障害者手帳所持者数は、約6,700人です。区の人口に占める割合は約4.5%と、18区中で最も高くなっています。

1. 地域のつながりと住民同士の支え合いの充実強化

現在、全国的に高齢者の所在不明や、児童虐待による痛ましい事件などが社会問題化しています。中区は、高齢者のうちひとり暮らしの割合が高いという特性があり、また子育て世帯や障害児・者の中には、地域との関わりが薄く、孤立し、不安を抱えているケースが見受けられます。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる中区にしていくためには、地域の中で孤立する人がいなくなるよう、声かけや見守り、ちょっとした手助けなどができる地域のつながりや住民同士の支え合いを強くしていく必要があります。

2. 活動の継続・活性化と次代を見据えた人材育成

中区においては、自治会町内会をはじめ多くの団体や活動において、加入率が低下し、構成員が減少している傾向があります。また、役員や行政委嘱委員、ボランティア等地域で活動している人たちの高齢化が進んでいますが、多くの場合、新しい人材の確保は思うように進んでいません。

5年後、10年後を見据えたとき、地域社会がこれからも存続し、さらに活性化していけるよう、将来の地域の担い手・支え手となる新たな力の発掘や育成に、今から取り組んでいく必要があります。



重点取組

1

地域の“見守り力”を高めよう

孤立を防ぐため、近隣同士が互いに関心を払うことや、様々な担い手による身近な見守り活動、さらには見守りのネットワークづくりを進めていこう。

【みんなで取り組む行動目標】

- 日頃からあいさつや声かけをしよう。
- 何か気づいたら、自分ができることで良いから、行動を起こそう。
- おせっかいをやこう。援助が必要な人は、「たすけて」と声を上げよう。
- 商店や企業等事業者を含め、見守りの担い手を増やしていこう。
- 情報や課題を共有し、協力して支え合いの「網」を広げていこう。

【区役所・区社会福祉協議会の主な取組】

- 近隣同士の遠慮や無関心を乗り越え、住民相互の見守りや支え合いを推進する区民運動の醸成を進めます。
- みまもり安心グッズ「おふくろさん」の配布による見守り活動を継続しつつ、内容の充実や対象及び担い手の拡大などを検討し、進めます。
- 現在進めている見守り活動の定着を図るとともに、訪問員が活動しやすい環境づくりを進めます。
- 地域における見守りのネットワークづくり及びその活動を支援します。



重点取組

2

子どもたちを育む世代間のつながりを豊かにしよう

安心して子育てができ、子どもたちが明るく元気に育つ環境づくりを進めよう。
地域の文化・催事や高齢者の経験・知恵を伝え、未来を担う次世代を育てよう。

【みんなで取り組む行動目標】

- 地域の「芽」である子どもたちの、自分のまちを愛する心を育てていこう。
- 子育てを温かく見守り、まちで出会ったら笑顔を交わそう。
- 日中の見守り役など、高齢者が積極的に地域貢献していこう。
- 子どもたちの安全を守る取組を進めよう。
- 子どもたちと高齢者が交流する機会を増やそう。

【区役所・区社会福祉協議会の主な取組】

- 子育て関連の役立つ情報を収集・発信していきます。
- 高齢者による地域貢献活動を支援し、協働して取り組みます。
- 子どもたちと高齢者との自主的な交流活動が促進する支援を行います。
- 青少年の社会参加プログラムを検討し、実施します。

重点取組

3

地域の様々なネットワークを強くしていこう

子育て支援や高齢者・障害者支援、健康づくりなど、様々な取組を進めているボランティアや団体、機関・施設及び行政等のネットワークを充実強化していこう。

【みんなで取り組む行動目標】

- 団体や組織の枠を越えて、情報や課題を積極的に共有しよう。
- それぞれの強みを生かしながら、協力して取り組もう。
- 新しい地域資源を活用した仕組みづくりを進めよう。
- 活動を継続する中でも、新しいつながりを広めていこう。

【区役所・区社会福祉協議会の主な取組】

- 現在ある様々なネットワークを通じて、連携した取組を進めます。
- 新たな課題状況に対応して、必要なネットワークづくりや既存の仕組みの改善を図ります。
- 今後整備される3障害一体サービス提供施設（仮称）を拠点とし、区内の関係団体や機関が連携して支援できるネットワークをつくりまします。

重点取組
4

個性を認め合う共生社会を目指そう

高齢者や障害児・者、女性、子ども、外国人等それぞれの特性を理解し、それらの視点も生かした、誰もが安心して暮らせるやさしいまちをつくっていこう。

【みんなで取り組む行動目標】

- まずは相手を知ること、理解するところから始めよう。
- 工夫をしながら、コミュニケーションや交流を図ろう。
- 悩んでばかりでなく、相互に歩み寄り、具体的な解決策を共に考えよう。
- 共に地域に暮らす仲間として、一緒に取り組んでいこう。

【区役所・区社会福祉協議会の主な取組】

- 発達障害や高次脳機能障害など従来の認定基準では捉えきれない障害を含め、様々な機会において障害への理解を広げていきます。
- 専門機関やNPO等の協力も得ながら、外国人に関する地域課題の解決を地域と共に考えていきます。
- 要援護者など災害弱者への対応や多文化共生の観点も入れながら、防災の取組を地域と共に検討します。

重点取組
5

地域の人材を発掘し、育てていこう

様々な工夫や仕組みづくりをしながら、今必要とする人材を確保していこう。また、将来の地域を担う人材を育て、若い力や発想を取り込んでいこう。

【みんなで取り組む行動目標】

- 無理とあきらめないで、積極的に声をかけ、協力を求めていこう。
- 参加しやすい環境づくりや、参加したくなる工夫をしよう。
- 活動の意味や自分にとってのメリットなどを積極的に伝えていこう。
- 子育て世代を活動につなげていこう。その子どもたちにもつなげよう。
- 若い人たちのやる気の受け皿を創出していこう。

【区役所・区社会福祉協議会の主な取組】

- ボランティア等人材を発掘・確保し、提供していく仕組みをつくりまします。
- ボランティア活動をより身近なものにしていく普及啓発や仕組みづくりをします。
- ボランティア団体同士が連携し、活動を広げるための支援を行います。
- 活動に役立ててもらえるよう、広く情報を収集し、参考となる事例や活動のヒントなどを提供していきます。

重点取組
6

中区の人材・資源を生かした取組を進めよう

住む人だけでなく、働く人、学ぶ人、訪れる人、事業者や団体、機関・施設等、豊富な人材・資源を生かしながら、それぞれが力を合わせて取り組もう。

【みんなで取り組む行動目標】

- 自分たちのノウハウやできることを積極的に発信・提供していこう。
- 事業活動や専門分野を生かした社会参加・地域貢献活動を進めよう。
- 地域貢献への意欲の受け皿となる活動を増やしていこう。
- 事業者やその従業員、学生等も参加したくなる工夫をしよう。
- 活動に対しては、感謝の気持ちを伝えていこう。

【区役所・区社会福祉協議会の主な取組】

- 事業活動・専門分野を生かした地域貢献方法や、地域貢献への意欲の受け皿となる活動プログラムを関係団体等と検討し、提案していきます。
- 企業従業員の救急法受講者を増やすなど、昼間人口の活かし方を検討し、実施します。
- ボランティアとも協働し、地域資源を活用した健康づくり・介護予防活動の普及促進を図ります。
- 地域貢献活動の取組を、広く区民に知らせていきます。
また、区民からの「ありがとう」を伝えられる仕組みを検討し、つくります。



重点取組

7

今ある活動を大切にして続けていこう

地域や行政委嘱委員、ボランティア、活動団体・グループなど、中区の地域福祉保健の推進を支える活動を大切に、これからも活発に続けていこう。

【みんなで取り組む行動目標】

- これまでの活動の積み重ねを大切に、次につなげていこう。
- 新しい人材や発想、活力も積極的に入れていこう。
- 今の地域課題をふまえ、必要な改善も行いながら取り組んでいこう。
- 活動を多くの人たちに知ってもらえるようにしよう。

【区役所・区社会福祉協議会の主な取組】

- 現在の担い手に対する研修や、活動に対する支援体制を充実していきます。
- 区民の行政委嘱委員等に対する理解促進など、活動しやすい環境づくりを進めます。
- 高齢者の主体的な介護予防活動を育成・支援します。
- 地域で簡単に取り組める運動プログラムを、普及を担う人たちと共に開発し、広げていきます。



地域の元気と力を引き出す支援と環境づくり

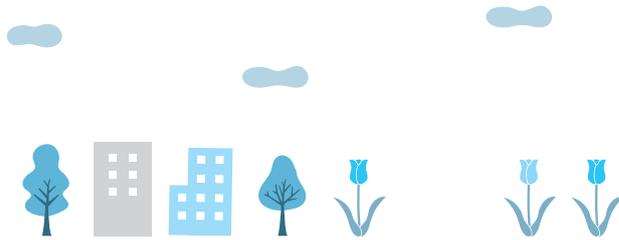
区役所及び区社会福祉協議会では、総合計画「横浜市中期4か年計画 2010～2013」に掲げる「参加と協働による地域自治」の実現を目指し、地域主体の福祉保健の取組を一層促進するため、次の基本的な考え方及び支援方法・取組により、地域支援をさらに進めていきます。

【基本的な考え方】

- ◆ 自治会町内会や地区社会福祉協議会など地域や団体等の主体的な活動を側面的に支援していきます。
- ◆ 中区の特性や地域資源を活用しながら、様々な主体との協働により、効果的な地域支援を進めます。

【支援方法・取組】

- ◆ 中区福祉保健活動拠点を活用し、区全体の福祉保健活動の活性化を図ります。特に、中区の特性である豊富な昼間人口や事業所等を生かす取組を重点的に進めます。
- ◆ 区内に6館ある地域ケアプラザを身近な地域における福祉保健の推進拠点として、地域に暮らす各世代の幅広い生活ニーズを把握しながら、地域のつながりへの的確な支援を行っていきます。
- ◆ 各業務における地区担当や地域ケアプラザ等関係機関の職員間において、情報共有や横の連携を強化していきます。
- ◆ 自発的な活動を生み出していくため、初期の活動に対する効果的な支援を検討し、実施します。また、そのための財源確保にも努めます。
- ◆ その他、区全域への情報発信や区域で活動する団体・機関等との連携強化、区全体に関わる仕組みづくりなどに取り組みます。



推進の協議

この計画全体の推進に関する協議は、「中なかいいネ！委員会」において行います。

委員会は、必要に応じて委員長が招集します。概ね年2～3回開催し、計画の取組状況を確認しながら、具体的な取組や計画の検証・見直し、その他計画推進に必要な事項を協議し、区役所及び区社会福祉協議会に対して意見を提出します。

なお、委員会では、必要に応じて、特定のテーマを取り扱う小委員会を設け、集中的に検討を行います。

地区別計画

地域の様々な主体の協力を集め、地区別計画を推進するため、各地区に「地区計画推進会議」を設置します。区役所及び区社会福祉協議会は、この会議の運営を支援します。

この会議は、主に地区内の情報や意見の収集、計画の推進・振り返り・見直し等の協議、取組状況の委員会への報告などを行います。また、地区内の情報や意見の収集にあたっては、「地区懇談会」を年1回程度開催します。

なお、この会議の構成や進め方、懇談会の開催及びその方法については、地区連合町内会や地区社会福祉協議会など既存の組織や仕組み、会合等を活用し、各地区の状況に合わせて、柔軟に設定します。

計画策定時の話し合いを継続し、さらに広く知恵や力を集めながら、自分たちの地区の計画を推進していきましょう。

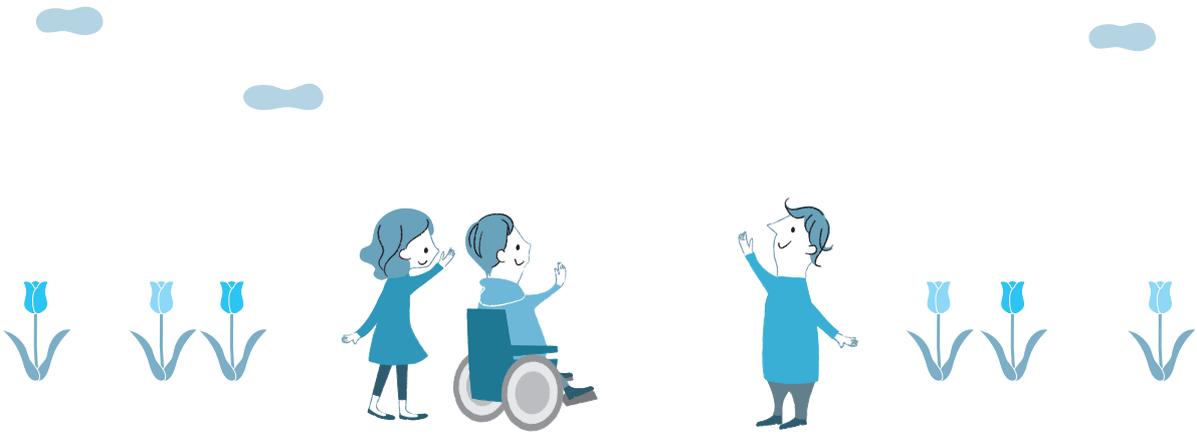


区全域計画

区役所及び区社会福祉協議会が、区民や様々な主体と共に計画に基づいた取組を推進し、その取組状況を委員会へ報告します。その他、区内で行われた活動等を把握し、あわせて報告します。

発表会等

「中なかいいネ！発表会」の開催や広報紙「中なかいいネ！通信」の発行など様々な手段を通じて、それぞれの地域や分野で行われている活動を広く紹介するとともに、計画の周知や地域福祉保健の理念の普及啓発を図ります。



V
參考資料



基礎データ

◆ 区全体のデータ

主な指標	中区	市全体に 占める割合	市平均 または全市数値	時点
------	----	---------------	----------------	----

<まちの様子>

面積 (km ²)	20.62	4.7%	24.2 (市平均)	H22.4.1
自治会・町内会加入率 (%)	66.2	—	77.1 (全市数値)	H22.4.1
商店街数(団体)	40	12.0%	18.5 (市平均)	H21.12
事業所数(件)	13,882	12.7%	6,090.7 (市平均)	H18.10.1
事業所従業員数(人)	180,414	13.3%	75,123.1 (市平均)	H18.10.1
第3次産業の割合 (%)	94.1	14.1%	84.6 (全市数値)	H18.10.1

<人口・世帯等>

人口(人)	149,073	4.0%	205,255.2 (市平均)	H22.3.31
昼夜間人口比率 (%)	182.9	—	90.4 (全市数値)	H17.10.1
人口増加率 (H17～22年度) (%)	5.0	—	3.0 (全市数値)	H22.3.31
社会増加数(人)	2,738	23.9%	635.6 (市平均)	H21
平均年齢(歳)	44.5	—	43.1 (市平均)	H22.3.31
65歳以上人口比率 (%)	20.0	—	19.5 (全市数値)	H22.3.31
15歳未満人口比率 (%)	11.2	—	13.4 (全市数値)	H22.3.31
世帯数(世帯)	84,276	5.0%	93,636.3 (市平均)	H22.3.31
世帯当たり人員(人)	1.77	—	2.19 (市平均)	H22.3.31
単身世帯の割合 (%)	57.7	—	38.9 (全市数値)	H22.3.31
外国人登録数(人)	15,680	20.1%	4,336.7 (市平均)	H22.3.31
対人口外国人割合 (%)	10.5	—	2.1 (全市数値)	H22.3.31
生活保護世帯数(世帯)	8,442	19.1%	2,451.7 (市平均)	H22.4
被保護率(%)	110.4	—	28.0 (全市数値)	H22.4
要支援・要介護者数(人)	5,408	4.9%	6,181.8 (市平均)	H22.3.31
障害者手帳所有者数(人)	6,748	5.2%	7,179.2 (市平均)	H22.3.31
結核罹患率(人口10万対)	47.7	—	19.6 (全市数値)	H21.12.31

横浜市統計ポータルサイト、横浜市町内会連合会 HP、中区統計データ・資料から作成

◆ 12 地区のデータ比較

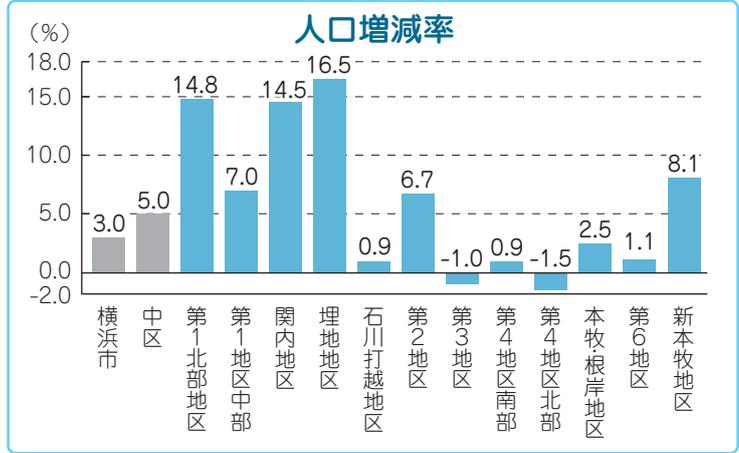
※寿地区の数値は、埋地地区に含まれます。

人口増減率（H 17～H 22）

埋地地区、第1北部地区、関内地区が区平均を大幅に超える高い割合で増加となっています。

次いで、新本牧地区、第1地区中部、第2地区が中位値にあり、10地区が増加となっています。

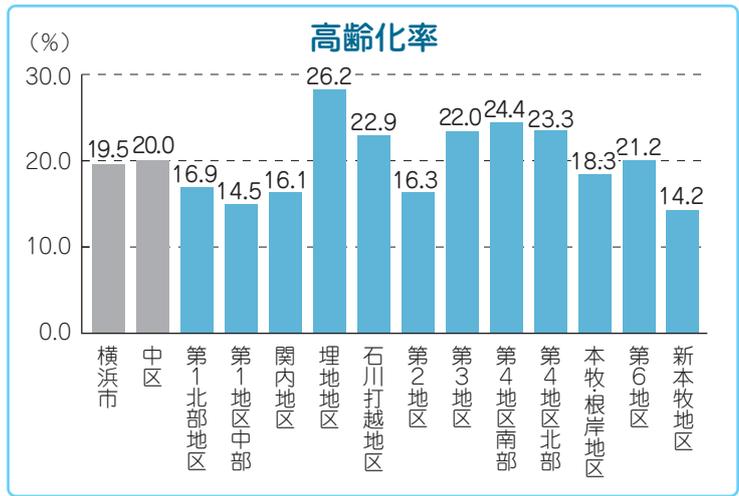
一方、第3地区と第4地区北部の2地区は、わずかながら減少となっています。



高齢化率（65歳以上人口の割合）

寿地区のある埋地地区が最も高いほか、山手を中心とした区中央部の第4地区南部、第4地区北部、石川打越地区、第3地区、第6地区などで、区平均以上となっています。

一方、新しいまちである新本牧地区が最も低く、そのほか第1地区中部、関内地区、第2地区など概ね区北部で低くなっています。



年少人口比率（15歳未満人口の割合）

新本牧地区が最も高くなっており、概ね住宅地域で高い傾向にあります。

一方、埋地地区や関内地区、第1地区中部、第1北部地区など、区北部の商業地域では市平均を下回り、9%以下と低くなっています。

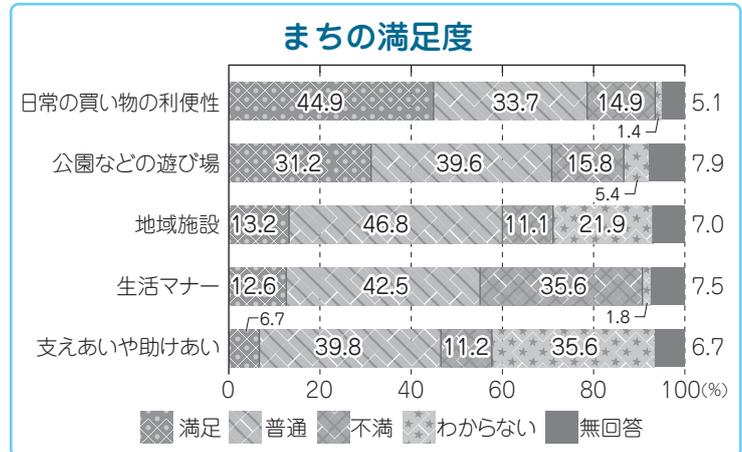


平成 22 年 3 月末現在 横浜市統計ポータルサイトから作成

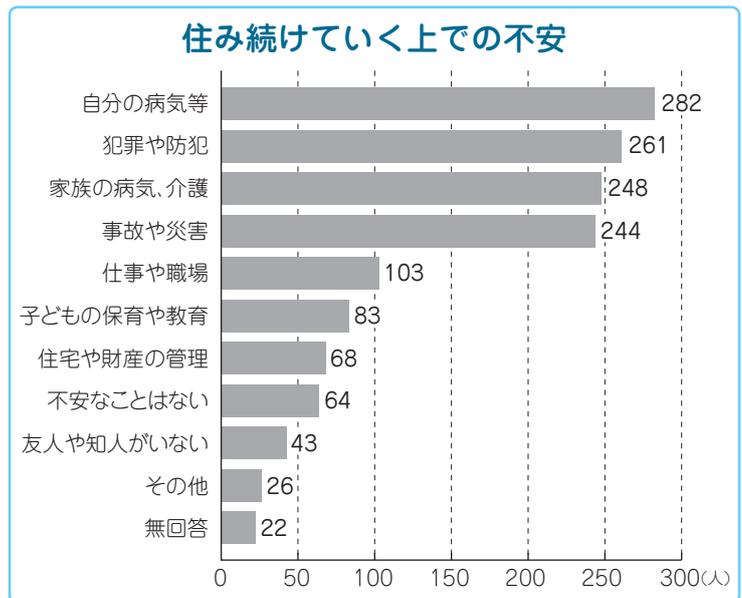
区民意識

平成 21 年度に実施された「より良い『中区地域福祉保健計画』をつくるためのアンケート調査報告書」（平成 22 年 3 月）から、主な項目を紹介します。

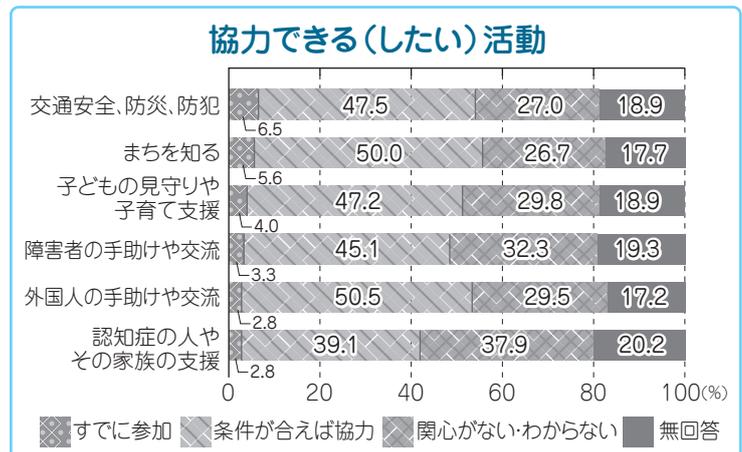
「まちの満足度」についての設問では、「日常の買い物の利便性」や「公園などの遊び場」に対する満足度が高くなっています。一方で、「生活マナー」や「支えあいや助けあい」など、近所付き合いに関する項目は満足度が低くなっています。



「住み続けていく上での不安」についての設問では、「自分の病気等」や「家族の病気、介護」、「犯罪や防犯」、「事故や災害」など、暮らしの安全や安心に関連した項目が上位となっています。



「協力できる（したい）活動」についての設問では、すべての項目で「すでに参加」という回答は少ないものの、「条件が合えば協力できる（したい）」という回答は多く、区民は潜在的な活動への意欲があると言えます。



社会福祉法（抜粋）

（市町村地域福祉計画）

第 107 条

市町村は、地方自治法第 2 条第 4 項の基本構想に即し、地域福祉の推進に関する事項として次に掲げる事項を一体的に定める計画（以下「市町村地域福祉計画」という。）を策定し、又は変更しようとするときは、あらかじめ、住民、社会福祉を目的とする事業を経営する者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるとともに、その内容を公表するものとする。

1. 地域における福祉サービスの適切な利用の推進に関する事項
2. 地域における社会福祉を目的とする事業の健全な発達に関する事項
3. 地域福祉に関する活動への住民の参加の促進に関する事項

第 2 期 横浜市地域福祉保健計画

◆ 計画期間

平成 21 年度～平成 25 年度

◆ 計画の基本理念

誰もがいつまでも安心して暮らせる都市よこはまをつくろう！

◆ 推進の柱

1. 地域づくりを進める
2. 必要な人に的確に支援が届く仕組みをつくる
3. 幅広い市民参加により地域福祉保健の取組を広げる

策定過程

平成 22 年 3 月

より良い「中区地域福祉保健計画」をつくるためのアンケート調査

平成 22 年 6 月

平成 22 年度第 1 回中なかいいネ！委員会
(基本的考え方、策定の進め方など)

地区ごとに、「地区別計画策定プロジェクト」を設置し、
検討開始

平成 22 年 7 月

平成 22 年度第 1 回中区地域福祉保健推進会議
(検討状況報告)

平成 22 年 9 月

平成 22 年度第 2 回中なかいいネ！委員会
(中間報告)

9 月～ 11 月

各地区にて、「地区懇談会」を開催

平成 22 年 12 月

平成 22 年度第 3 回中なかいいネ！委員会
(計画素案の協議)

平成 23 年 1 月

計画素案に対する区民意見募集

平成 23 年 3 月

平成 22 年度第 2 回中区地域福祉保健推進会議
(計画案の審議)

計画策定

※「中区地域福祉保健推進会議」とは、地域における総合的な福祉保健サービスを充実させていくことを目的に、区役所に設置されている機関です。この会議では、地域福祉保健計画や地域包括支援センター事業をはじめ、中区の地域福祉保健施策について、関係団体の代表等及び区役所により協議します。

委員名簿

◆平成22年度 中なかいいネ！委員会

(五十音順・敬称略)

	氏名	所属・役職等
1	稲川 雅巳	埋地七ヶ町連合町内会副会長
2	大嶋 生雄	第一北部地区社会福祉協議会会長
3	鎌倉 崇	本郷町3丁目第2町内会会長
4	唐崎 旬代	石川打越地区社会福祉協議会会長
5	木村 博之	(公財)横浜市国際交流協会 多文化共生課課長代理
6	河野 嘉延	第三地区社会福祉協議会会長、中区民生委員児童委員協議会副会長
7	佐々木 茂雄	中区ボランティア連絡会会長
8	佐藤 真理子	寿地区民生委員児童委員協議会会長
9	狭山 俊司	横浜商工会議所 地域活動推進室長(中部支部事務所長)
10	清水 浩一 ◎	明治学院大学教授
11	鈴木 聖一	パークシティ本牧自治会副会長
12	千野 光康	第六地区社会福祉協議会事務局長
13	中村 徹	第一中部地区社会福祉協議会事務局長、中区商店街連合会事務局長
14	丹羽 博利	本牧・根岸地区社会福祉協議会事務局長
15	松浦 徳治	中区老人クラブ連合会会長
16	松澤 秀夫	第二地区連合町内会会長、第二地区社会福祉協議会会長、 中区保健活動推進員会会長
17	三枝 公一	不老町地域ケアプラザ所長
18	梁田 理恵子	中区主任児童委員連絡会代表
19	山田 五男 ○	中区連合町内会長連絡協議会会長、中区社会福祉協議会会長、 第四地区北部連合町内会会長
20	湯川 勝明	関内地区社会福祉協議会会長
21	渡部 専枝郎	中区障害者団体連絡会事務局長
22	遠藤 実	中区福祉保健センター担当部長

◎=委員長、○=副委員長



スウィンギー
中区のマスコットキャラクター



横浜市中区役所 福祉保健課 事業企画担当
☎045-224-8330 FAX 045-224-8157

社会福祉法人 横浜市中区社会福祉協議会
☎045-681-6664 FAX 045-641-6078